

【 議 事 1 】

下関市地域公共交通計画について

# 下関市地域公共交通計画（案）について

---

令和5年11月27日

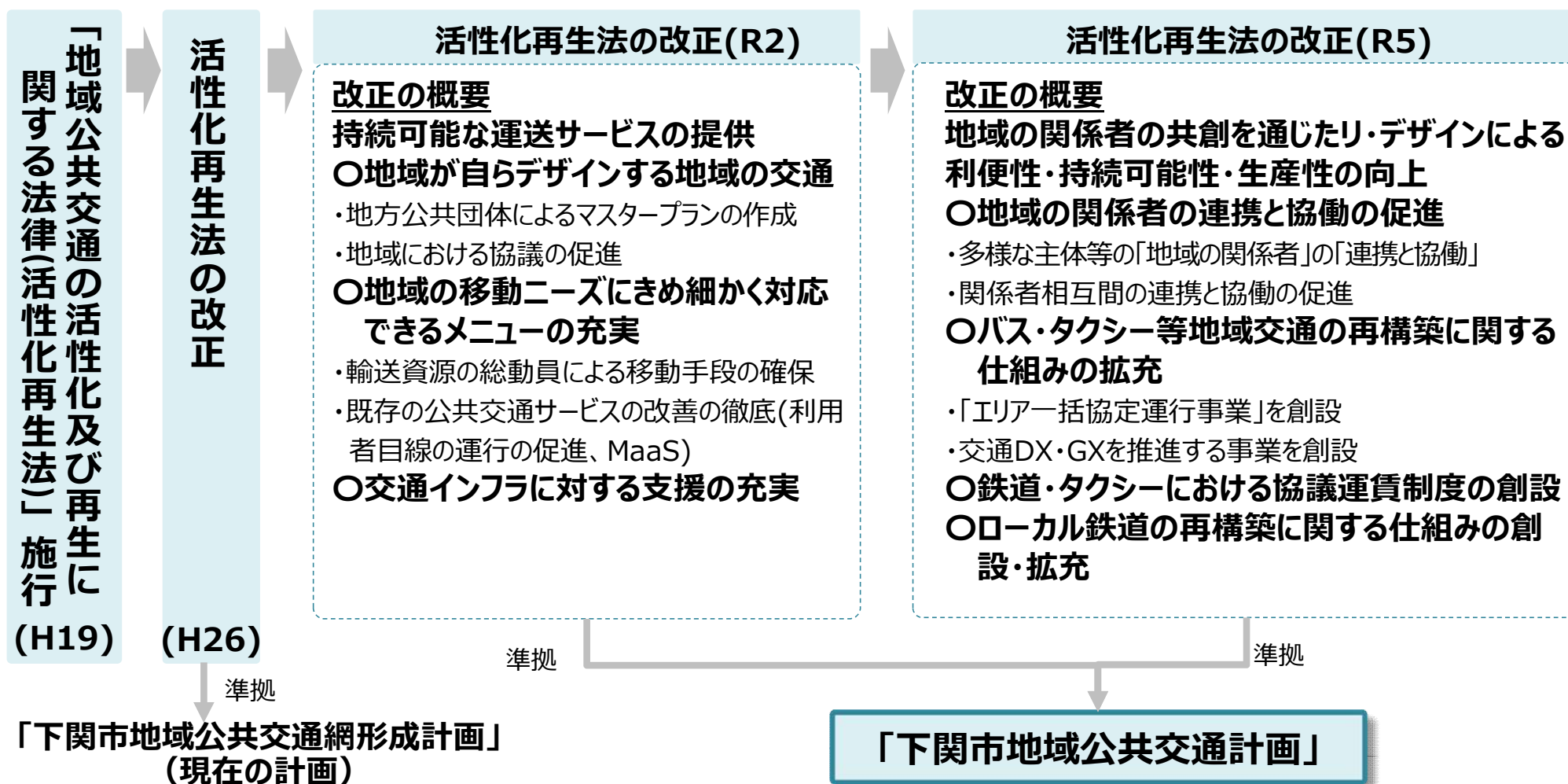
下関市都市整備部交通対策課

1. 地域公共交通計画の概要
2. 交通を取り巻く状況
3. 公共交通の現状
  - 3.1 公共交通の実態
  - 3.2 市民アンケート調査結果
  - 3.3 交通事業者・総合支所ヒアリング結果
4. 地域公共交通の課題と方向性
  - 4.1 市全体の課題と方向性

# 1. 地域公共交通計画の概要

## (1) 背景と目的

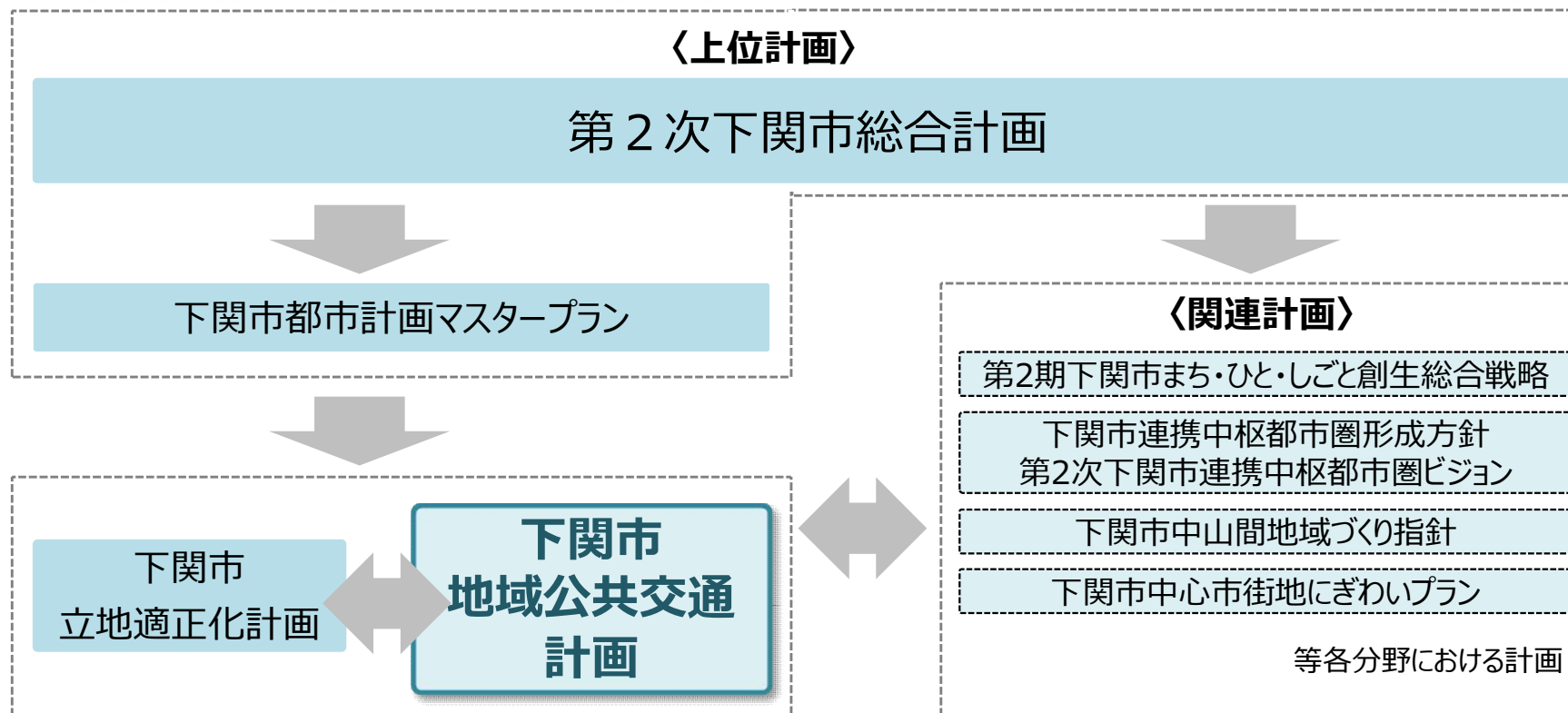
- ・令和2年の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正では、従来の「ネットワーク」に主眼を置いた考え方から、「持続可能な運送サービスの提供」が重要視されています。
- ・さらに、令和5年の法改正では、あらゆる交通モードにおける地域の関係者の連携・協働＝「共創」を通じて、利便性・持続可能性・生産性が向上するよう、地域公共交通ネットワークを再構築＝「リ・デザイン」することが必要となっています。
- ・社会情勢の変化や公共交通を取巻く環境の変化、本市の特性を踏まえ、まちづくりに合った持続可能な公共交通を構築するために、現在の計画を見直し、新たに「下関市地域公共交通計画」を策定します。



# 1. 地域公共交通計画の概要

## (2) 計画の位置づけ

・本計画は、本市の最上位計画である「第2次下関市総合計画」及び、都市計画の方針である「下関市都市計画マスタープラン」を踏まえるとともに、「下関市立地適正化計画」などの各分野における計画との整合・連携を図ります。



## (3) 計画の対象地域

・本計画の区域は、下関市全域とします。

## (4) 計画の期間

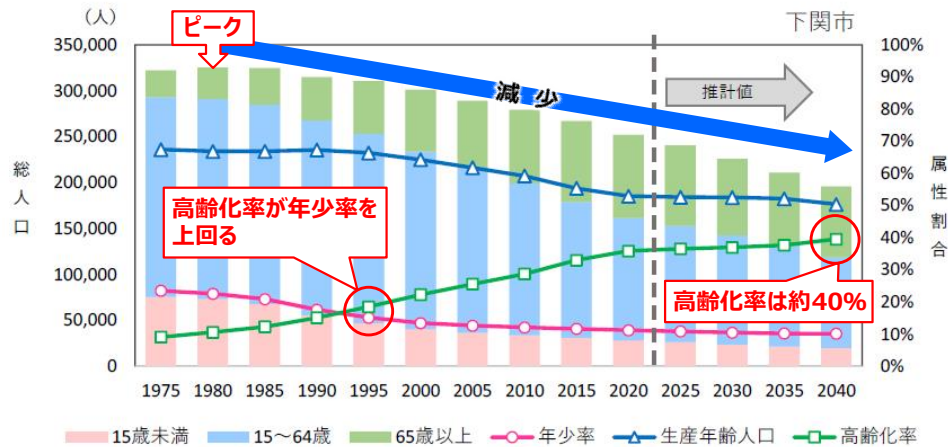
・本計画は地域旅客運送サービスの前提となる人口や施設立地の変化に応じた目標設定が重要であることから、下関市地域公共交通網形成計画の目標年（2028年）を延長し、計画期間を**2024年～2029年までの5年間、さらにその先の長期を見据えるもの**とします。なお、本計画の内容は、関連計画と連動しながら適宜見直しを行うものとします。

# 2. 交通を取り巻く現状

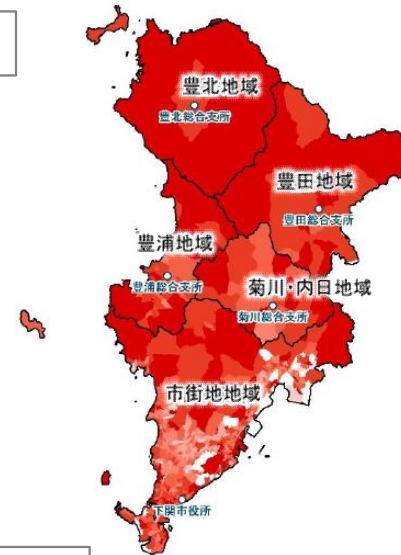
## (1) 人口

- 本市の総人口は、1980年をピークに減少傾向に転じており、その後将来では更に著しく減少していくものと予測されています。また1995年以降、高齢化率が年少率を上回っており、今後も高齢化が進行し、2040年には約40%にまで上昇することが予測されています。
- 市全体として人口減少の傾向にあり、これまでは4地域(菊川・内日地域、豊田地域、豊浦地域、豊北地域)をはじめとした郊外部を中心に人口の低密度化が進んでいましたが、今後は下関駅周辺の市街地についても、人口の低密度化が進行していくことが予測されています。

### 人口推移

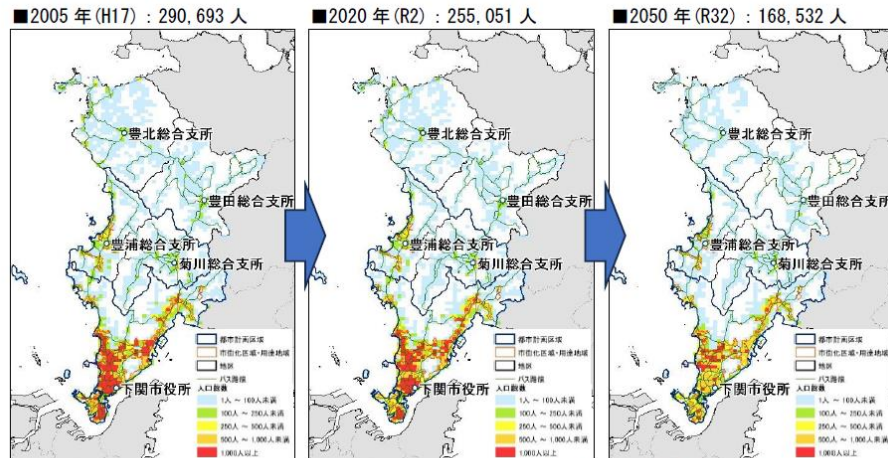


### 高齢者人口割合



### 人口分布

資料: 2020年まで→下関市「統計しものせき(地区別)」、  
2025年以降→推計値は国立社会保障・人口問題研究所  
『日本の地域別将来推計人口』(平成30(2018)年推計)



### 運転免許返納件数

資料: R2 国勢調査



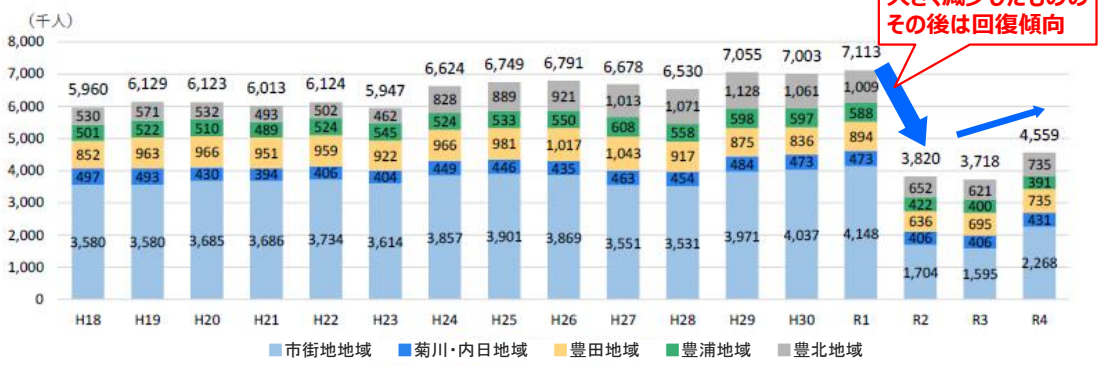
# 2. 交通を取り巻く現状

## (2) 観光

- ・市内の観光資源については、市全域に点在しており、特に中心市街地では市立しものせき水族館海響館や唐戸市場・カモンワークなどを中心に観光資源が立地しています。
- ・本市の観光客数は、増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年以降は大きく減少し、その後は回復傾向となっています。

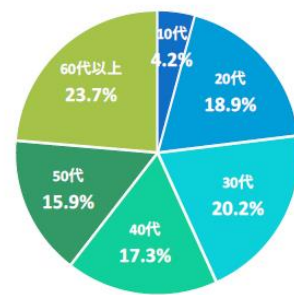


### 観光客数

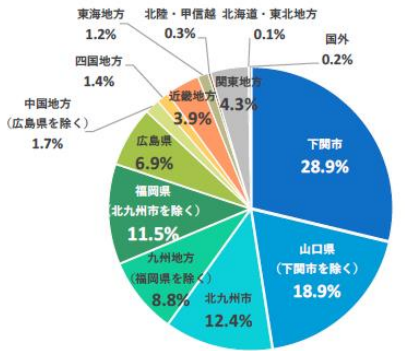


大きく減少したものの  
その後は回復傾向

【年代】



【居住地】



資料: 下関市 HP「令和4年の下関市観光客数・宿泊客数について」

本市を訪れる観光客は、60代以上が最も多く、50代を合わせると全体の約40%を占める。日帰り圏内と考えられる中国・九州地方から来られる観光客が約87%。

# 3. 公共交通の現状

## 3.1 公共交通の実態 (1) 下関市の公共交通網

- ・鉄道は瀬戸内海に沿った山陽本線と山陽新幹線、日本海側で本市の南北を結ぶ山陰本線があります。
- ・路線バスは市内の全域で運行しており、菊川地域・豊北地域・豊田地域では市が生活バスを運行しています。
- ・航路は門司港、六連島、蓋井島、巖流島へ就航しており、韓国への国際航路も有しています。

下関市の公共交通網



資料: R4鉄道データ(国土数値情報)、  
下関市都市計画基礎調査結果(令和4年度)、下関市生活バスHP、  
下関港HP、関門汽船株式会社HP

# 3. 公共交通の現状

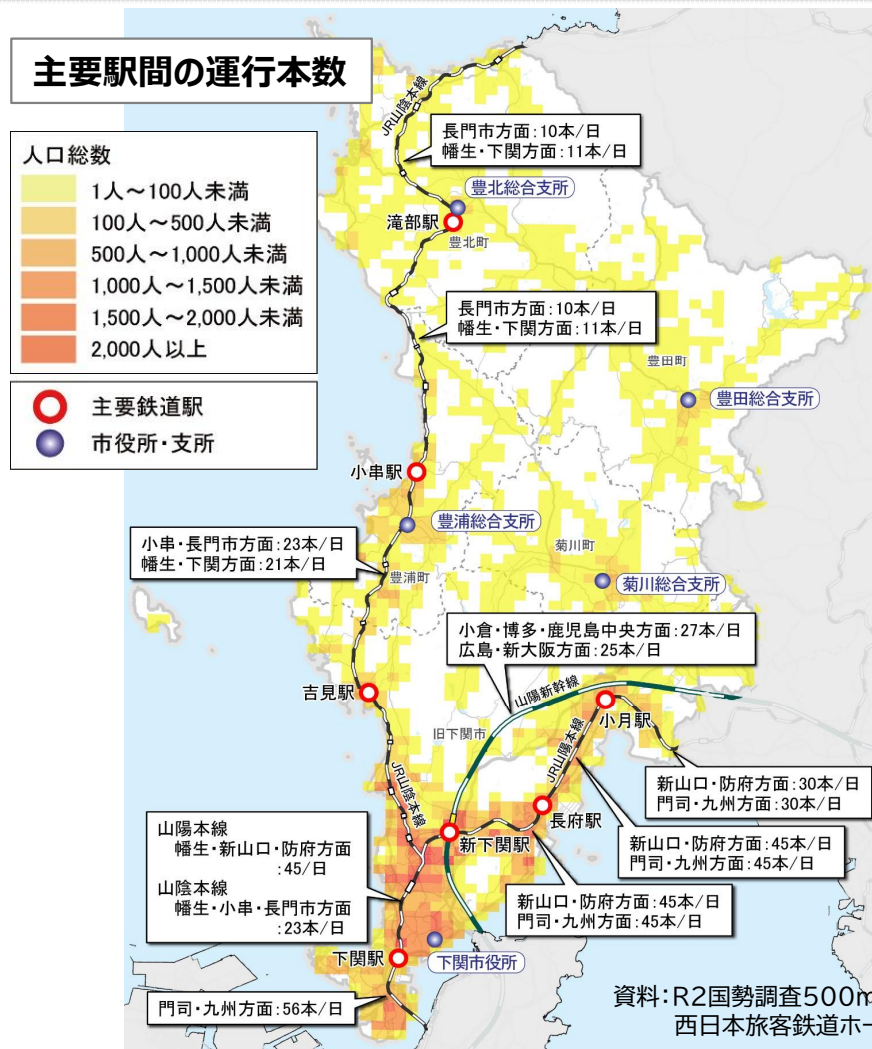
## (2) 鉄道

### 【主要駅間の運行本数】

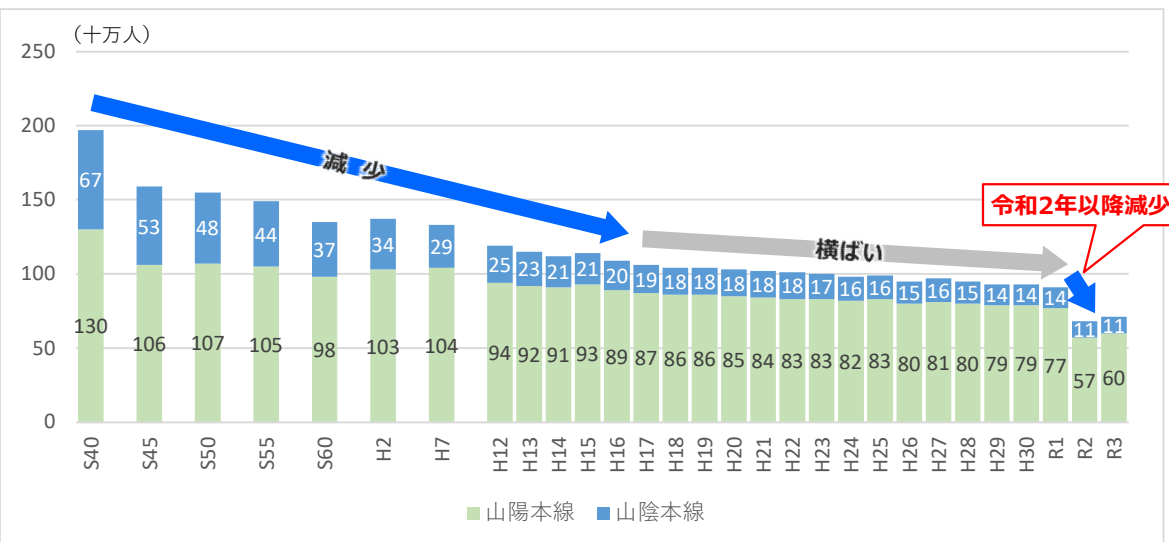
- ・市内を運行している山陽本線及び山陰本線の運行本数は、下関駅から離れるほど減少しています。
- ・特に、山陰本線は小串駅を境に運行本数が大きく減少している状況にあります。

### 【鉄道輸送人員の推移】

- ・鉄道利用者数は、昭和40年以降大幅に減少していますが、平成17年以降は山陽本線、山陰本線のいずれも横ばい傾向にあります。
- ・なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年以降は減少しています。



### 鉄道輸送人員の推移



市街地地域内は鉄道の運行本数は充実しているのに対し、山陰側の豊浦地域、豊北地域では運行本数は大きく減少する。なお、菊川・内日地域、豊田地域には鉄道が運行されていないことから、他の公共交通手段に頼らざるを得ない状況。

# 3. 公共交通の現状

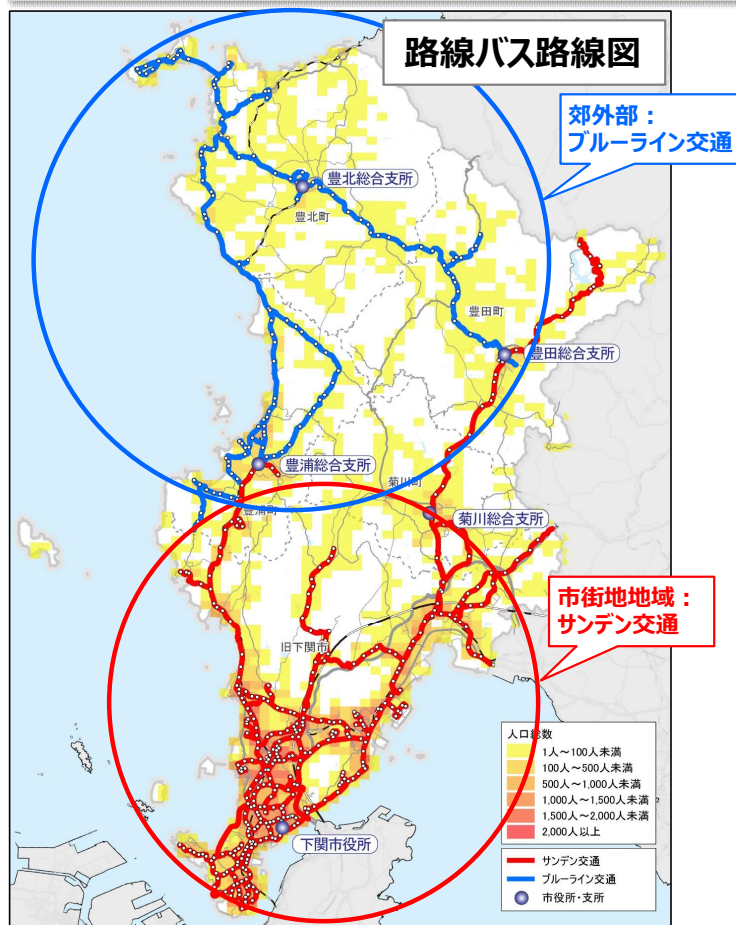
## (3) 路線バス

### 【路線バス路線図】

・市内においては、サンデン交通とブルーライン交通の2社により路線バスが運行されており、市街地地域内はサンデン交通により、それ以外の郊外部はブルーライン交通が担っています。

### 【路線バス運行本数】

・下関駅を中心に1日の運行本数が300本以上運行されている区間があるものの、郊外部に行くほど本数は減少し、4地域(菊川・内日地域、豊田地域、豊浦地域、豊北地域)の多くでは1日100本未満という状況です。



資料：R2国勢調査(人口メッシュ)、下関市都市計画基礎調査結果(令和4年度)

市街地地域内はサンデン交通、郊外部は主にブルーライン交通が担っている。



資料：サンデン交通GTFISデータ(R5.6時点)、ブルーライン交通GTFISデータ(R5.6時点)

市街地地域内の下関駅～長府間は、利用者も多く10～15分間隔で運行している。郊外部は運行本数は少なく、特に豊北地域は1日50本/日未満の区間のみ。



# 3. 公共交通の現状

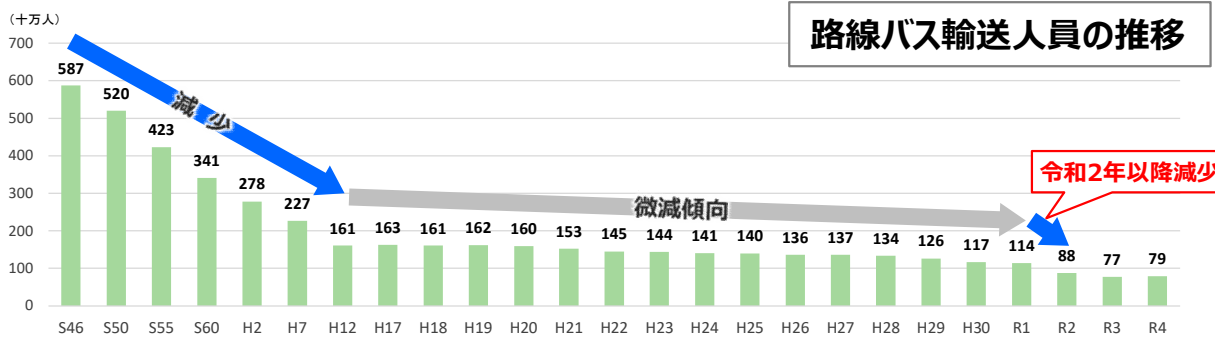
## (3) 路線バス

### 【利用者数】

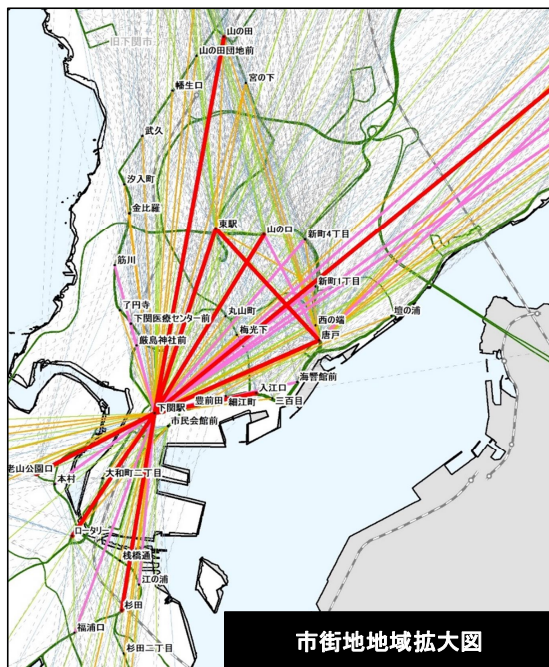
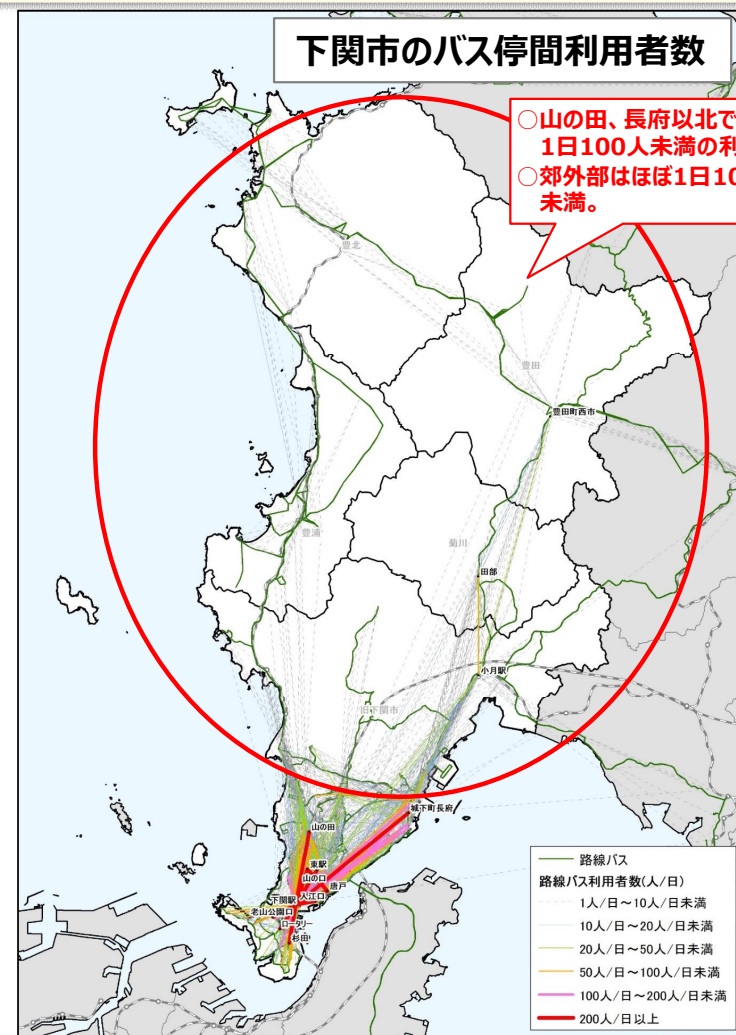
- ・路線バスの利用者数は、昭和46年から平成12年にかけて大幅に減少し、平成12年以降は微減傾向が続いています。
- ・なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年以降は減少しています。

### 【バス停間別利用者数】

- ・下関市中心部の利用者は多いですが、山の田、長府以北では1日100人未満の利用状況です。
- ・また4地域(菊川・内日地域、豊田地域、豊浦地域、豊北地域)をはじめとした郊外部においては1日10人以上の区間はほとんど存在しません。



資料:下関市による集計



市街地地域内は下関駅~唐戸~東駅を中心に1日200人以上が利用があるが、郊外部はほぼ全ての区間で1日10人未満の利用状況

# 3. 公共交通の現状

## (3) 路線バス

### 【最終バス】

- ・下関駅を基準とした最終バスは、東駅、長府、彦島方面へは22時台まで運行されており、100人/日（20時以降）の利用者がいます。
- ・一方で、幡生、金比羅、筋川方面は、1日の降車客数が50人以上いるバス停においても、22時以前が最終バスとなっています。

### 下関駅からの最終路線バス利用者

